

### 3 収支決算の状況

本市の平成16年度普通会計決算は、形式収支・実質収支ともにわずかながら黒字決算を維持しましたが、これは約7億2千万円の基金を取り崩して黒字決算を維持できたものであり、実質単年度収支は平成13年度以降依然として4年連続赤字となっており、大変厳しい財政運営を強いられています。

#### 基金等の状況

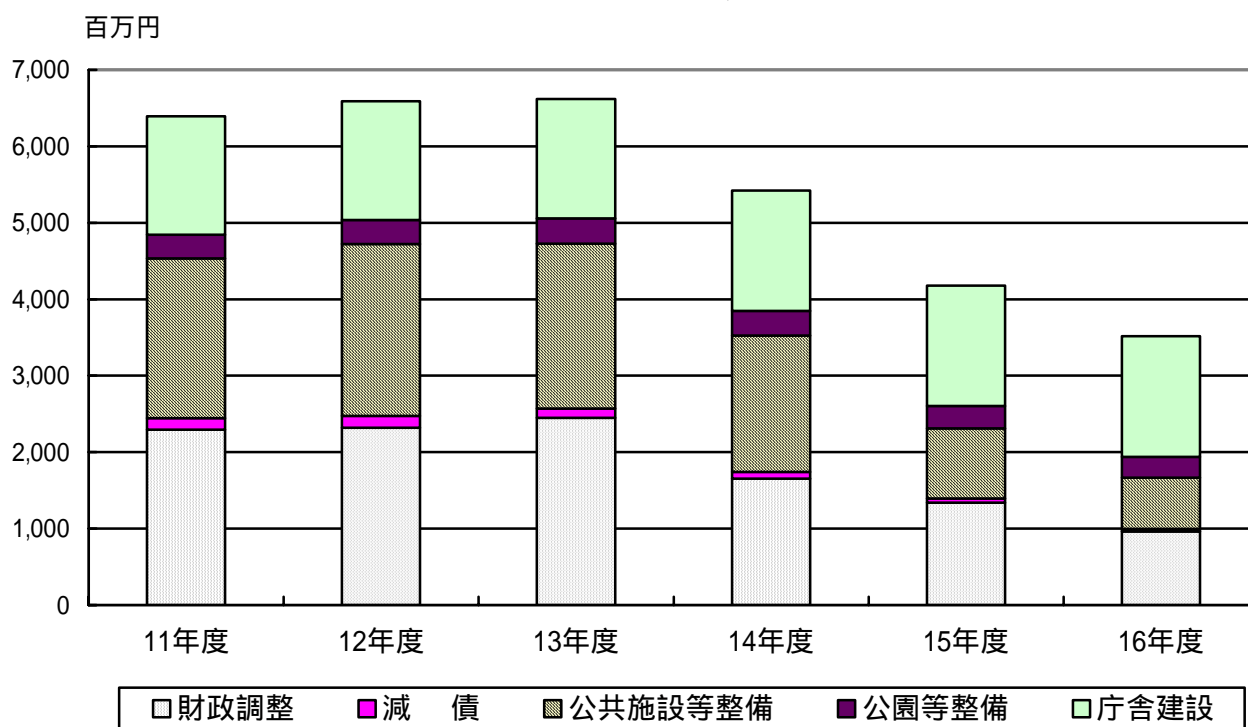
##### 主な基金残高

(単位：百万円)

区 分	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
財政調整	2,293	2,319	2,451	1,655	1,340	964
減 債	154	155	120	86	56	33
公共施設等整備	2,087	2,250	2,155	1,783	915	668
公園等整備	310	312	330	325	294	274
庁舎建設	1,548	1,555	1,563	1,571	1,574	1,578
合 計	6,392	6,591	6,619	5,420	4,179	3,517

数値は各年度末残高を表示

#### 主な基金残高



## 財政指数

### 普通会計の財政指標の推移

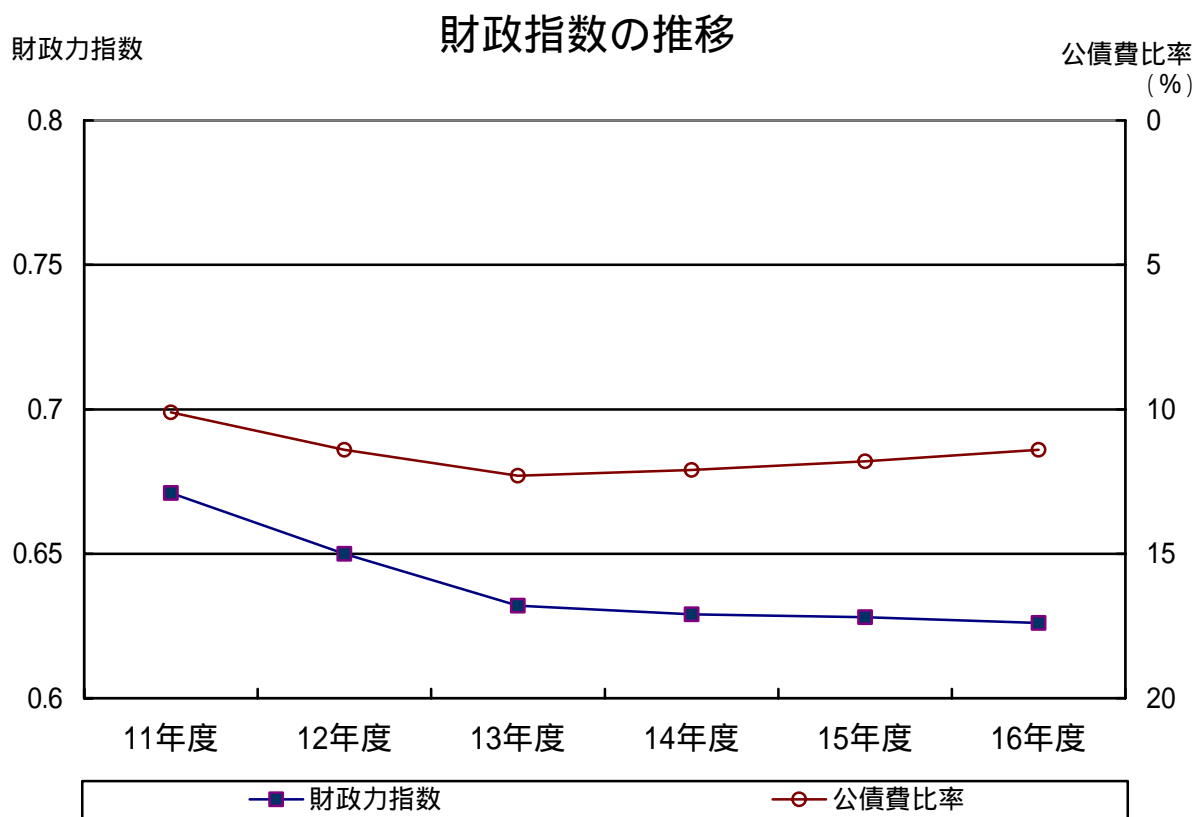
(単位：百万円)

区 分	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
実質収支	18	236	24	95	9	0
実質単年度収支	135	289	-200	-738	-450	-391
標準財政規模	15,208	15,337	15,099	14,788	13,874	13,877
経常収支比率	87.9	90.7	94.5	95.7	97.7	98.7
財政力指数	0.671	0.650	0.632	0.629	0.628	0.626
公債費比率	10.1	11.4	12.3	12.1	11.8	11.4

経常収支比率は、財政構造の弾力性を示す指標で、都市にあっては75～80%が妥当とされている。

財政力指数は、基準財政収入額 / 基準財政需要額で算出される指標で、1に近づくほど、また1を超えるほど財政力が強い。

公債費比率は、標準財政規模に対する市債の償還に充当された一般財源の割合で、10%を超えないことが望ましい。



## 経常収支比率の推移

